

たかちほの杜 プロジェクト 基本構想

目次

1. 基本構想について	1
2. 現状・課題	2
3. たかちほの杜プロジェクトの位置づけ	4
4. たかちほの杜プロジェクトにおける目標 と高千穂町の理想像との関連	5
5. まちなか複合拠点施設と新たな道の駅の 役割	6
6. まちなか複合拠点施設および新たな道の 駅のコンセプト	7
7. まちなか複合拠点施設および新たな道の 駅への導入機能	8
8. まちなか複合拠点施設の配置方針および 導入機能	9
9. 新たな道の駅の位置と周辺道路等との 接続方針および導入機能	12
10. 今後のスケジュール	15

高千穂町の交通拠点であり賑わいの中心は、かねてより宮崎交通バスセンター周辺の中心市街地でありました。この中心市街地も、人口減少や少子高齢化によるバス利用者の減少、またモータリゼーションの進化、団体旅行から個人旅行への旅行形態変容等の理由から人の流れが変わり、空き店舗が増えつつある状況です。あわせて、中心市街地周辺に点在する図書館等の様々な公共施設は同じく老朽化が進み、早期の建替えが求められる時期を迎えています。

本町では、高千穂峡や神話にゆかりの神社等の観光資源だけでなく、市街地を歩きお金を落とさせていただく「歩いて楽しい観光地」も視野にまちづくりに取り組んでいます。そのハブ機能を果たしつつ、老朽化した施設機能の集約、また新たな賑わいを創出する魅力も兼ね備えた中心市街地における複合拠点施設の整備を構想する必要に迫られています。

また、本町は宮崎県内でも有数の観光地であり、令和7年の観光入込客は本町の観光統計史上最高の177万2千人を数え、200万人を見据える活況を呈しています。これまでの最高値は平成27年の161万6千人でしたが、その年は東九州自動車道の大分～宮崎間が開通、加えて九州中央自動車道の北方延岡道路（蔵田～北方間）が開通した年であり、町内に渋滞が発生する課題はあったものの、高速道路の整備効果を実感する出来事でありました。この様に、高速道路の開通は、観光面をはじめ経済産業活動、地域間交流の促進、地域住民の利便性向上など多種多様な効果を生み出すことから、本町としても現在整備が進む九州中央自動車道の整備促進をなお一層強力に推進していく必要があります。

中心市街地の再編構想と同じく、将来のまちづくりを構想するにあたっては、高速道路の開通を念頭において検討を進める必要があります。高千穂インターチェンジは本町観光の玄関口となりますが、想定される渋滞を未然に防ぐ、国・県と連携したインターチェンジ周辺の道路設計とあわせ、高速道路との直結をイメージする「新たな道の駅」設置を構想して参ります。観光客が立ち寄り、また地域住民もそこに集い、町として稼げる魅力的な施設とすることはもちろん、南海トラフ地震などの大規模災害発生を見据え、「防災道の駅」の機能も兼ね備えた施設として整備することを想定しています。

なお、「中心市街地の複合拠点施設」と「新たな道の駅」については、立地条件から求められる機能が異なるため、この度両拠点の機能分担も含めて未来のまちづくりを構想する「たかちほ+未来共創会議」を創設し、「たかちほの杜プロジェクト」という枠組みの中で構想をまとめることができました。

高速道路開通を見据えた両拠点の連携のあり方も含め、将来の高千穂町が現在の課題を克服しながら更に活気ある町となる様、今後は次期ステップとなる基本計画の中で幅広い関係者の皆様、多くの町民の皆様方からご意見を伺いながら具体的な内容を詰めて参りますので、皆様方のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、基本構想を取りまとめるにあたり、熱心にご協議いただきました関係者の皆様方に心より感謝申し上げます、ご挨拶といたします。

令和8年3月

高千穂町長 甲斐宗之

1. 基本構想について

- ▶ 高千穂町を取り巻く背景を踏まえて、町が抱える各種課題を改善した未来の姿(理想像)を掲げ、実現に向けたまちづくりを戦略的に取り組むための「たかちほの杜プロジェクト」の基本構想を策定する。
- ▶ 「たかちほの杜プロジェクト」は「第6次高千穂町総合長期計画」の重点プロジェクト（第3期高千穂町まち・ひと・しごと創生総合戦略）を具体的に進めるための取り組みとして位置づけられている。
- ▶ 今後、基本構想を基に基本計画の策定や設計・施工等に着手し、たかちほの杜プロジェクトを推進する。

基本構想策定に係る背景・目的

<高千穂町を取り巻く背景>

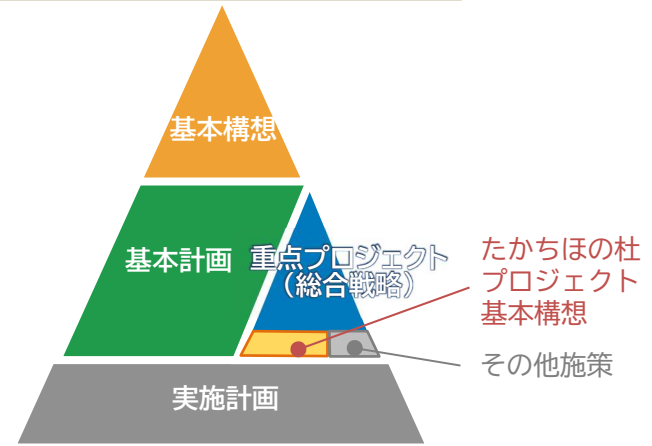
交通アクセスの飛躍的な向上	「地域拠点」の戦略的整備	公共施設の老朽化に伴う施設集約
<p>今後、九州中央自動車道の整備をはじめとするインフラ環境等の劇的な変化が予測される。</p> <p>これに伴い、高千穂町の交通アクセスは飛躍的に向上し、広域的な人・モノ・情報の流れが活性化する一方で、既存の受け皿となる都市機能や地域資源だけでは十分に対応しきれない状況が生じつつある。</p>	<p>人口減少や観光の一極集中、地域産業の停滞、災害リスクの高まりといった町固有の課題に対応するには、従来型の施設整備を超え、観光・交流・防災・地域経済の複合的な機能を持った「<u>地域拠点</u>」の戦略的整備が必要不可欠である。</p>	<p>公共施設の整備から長い年月が経過し、各種施設の老朽化が進んでいる。</p> <p>これらの公共施設の集約等による利便性の向上や維持管理費の抑制が求められる。</p>

<基本構想策定の目的>

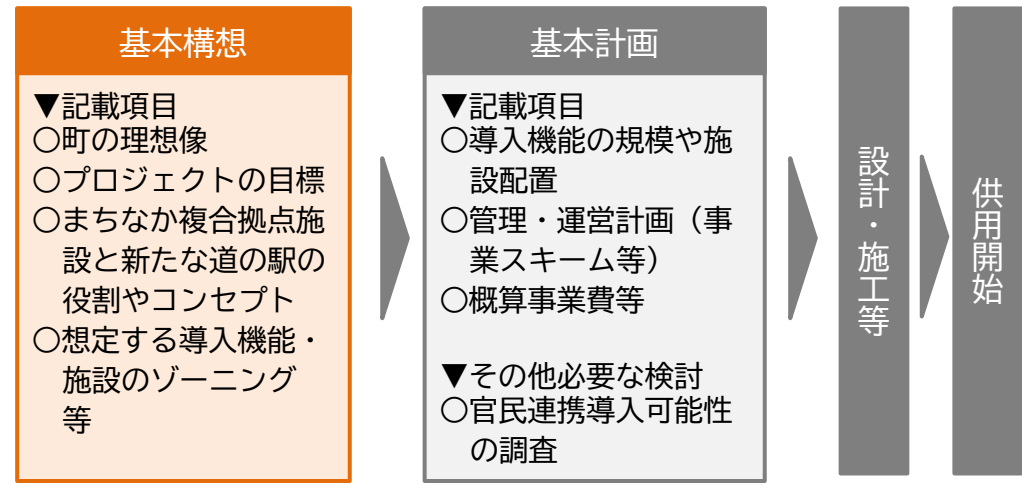
高千穂町が未来に向けて持続可能で大きな枠組みで地域社会を築いていくための基盤づくりの推進に向け、町が抱える各種課題を改善した未来の姿(理想像)を掲げ、実現に向けたまちづくりを戦略的に取り組むための「たかちほの杜プロジェクト」の基本構想を策定する。

基本構想の位置づけ

第6次高千穂町総合長期計画



基本構想で示す内容と今後の計画について



2. 現状・課題①

(1) 高千穂町における現状・課題

<人口・暮らし>

- ▶ 高齢者比率が年々上昇。地域コミュニティの維持が困難。
- ▶ 若年層の進学・就職で町外へ流出。
- ▶ 地元に戻る選択肢が少ない（雇用・子育て支援）。
- ▶ 空き家はあるが、貸せない住めない。移住希望者の確保（定住）ができない。
- ▶ 子どもたちが遊べる場所がない。
- ▶ 受けられる福祉サービスが限られている。
- ▶ 今後、経営や人材不足の面から、福祉サービス提供施設の運営の継続が困難となる可能性がある。

<歴史・沿革>

- ▶ 語り部や神楽の後継者不足。
- ▶ 社会教育の学習施設がない。

<産業>

- ▶ 農業・林業などの後継者不足（廃業）や地元企業の人手不足が深刻。
- ▶ 限定された就業先（選択肢が少ない）。
- ▶ 起業や新規事業への支援体制が不十分。6次産業化の芽はあるが、広がらない。
- ▶ 高千穂ブランドがうまく活かされていない。
- ▶ 年間通して販売できる農作物が少ない。
- ▶ 商品開発や販路開拓が個別対応に留まり、町全体の戦略（連携）が不足。
- ▶ 観光客は多いが消費額が伸びない。観光の波及効果が限定的。
- ▶ 賑わいのある施設（公共、商業等）がない。

<観光>

- ▶ 日帰りの観光客が多く、消費額が伸びにくい。
- ▶ 高千穂峡などの一部の観光地に集中し、町内の他エリアへの回遊が少ない。
- ▶ 自動車依存のため、渋滞や駐車場不足が発生。
- ▶ 飲食店、宿泊施設、観光案内等の担い手が不足。

<交通>

- ▶ 観光シーズンに渋滞と駐車場問題が発生。
- ▶ 高齢者や観光客にとって移動手段が限られる。
- ▶ 交通拠点が未整備。

<防災>

- ▶ 土砂災害のリスクが高く、集落が孤立する可能性が高い。
- ▶ 備蓄施設等が不足。
- ▶ 防災資材の輸送拠点や支援物資の受入れ拠点が緊急輸送道路から離れており、円滑な災害対応ができない。

2. 現状・課題②

(2) まちなかにおける現状・課題

<まちづくり>

- ▶ まちの賑わいの低下（人口減少、高齢化による店舗減少）。
- ▶ 厳しい財政の中、公共施設の老朽化・低利用。
- ▶ 文化施設が乏しい。
- ▶ 誰もが気軽に集える場所が少ない。
- ▶ 小中高生が放課後や休日に集う場所がない。

<観光>

- ▶ 高千穂峡や高千穂神社、天岩戸神社など観光拠点へ観光客が集中。
- ▶ 日帰り観光が主流。

<交通>

- ▶ 交通の拠点が無い（人の滞留がない）。
- ▶ 季節型の観光需要とその対策。
- ▶ 慢性的な駐車場不足による生活道路・公共交通への影響。
- ▶ 観光需要をカバーする公共交通の見直し。

⇒ まちなかの活性化、観光需要の取り込みと受け入れ体制の両立、公共交通の維持・利便性向上、公共施設の再編が必要。

(3) 既存の道の駅「高千穂」における現状・課題

<利用状況>

- ▶ 道の駅「高千穂」及び周辺市町の道の駅等施設の利用者数を比較した場合、R5年では道の駅「高千穂」が最も少ない状況。
- ▶ 道の駅「高千穂」は、H27年からR2年にかけて利用者は減少傾向で、R2からR5まではやや増加傾向（R5の利用者数はH27と同程度）。
- ▶ 利用者のうち、観光客の割合は95%以上で地元住民の利用はほとんどない。

<施設状況>

- ▶ 整備後20年程度が経過し、機械設備の老朽化や売り場（物産館・レストラン）等の面積が十分でない。
- ▶ 観光シーズンは、天候に左右されるが多くの観光客が来訪。
- ▶ 来訪者が多い時期・時間帯に駐車場待ちの列が発生し、周辺が混雑。

<道の駅の動向(求められる役割)>

- ▶ 国が掲げる「道の駅第3ステージ」では、地域課題の解決や観光・交通・防災機能を複合的に備えた“地域の中核拠点”としての道の駅整備を強く推奨。

⇒ 現状の駐車場台数や施設規模では利用者数の増加は難しい状況で、第3ステージの方向性への対応も難しい状況。

3. たかちほの杜プロジェクトの位置づけ

➤ **まちづくりの核となる新たな2つの拠点の連携**により、その他施策と合わせて**高千穂町の理想像を達成**することを目指している。

第6次高千穂町総合長期計画

【将来像】世界に誇る地域資源を活かし豊かでみんなが輝くまち 高千穂～神々と自然と人とのつながりを次世代へ～

重点プロジェクト(第3期高千穂町まち・ひと・しごと創生総合戦略(R7年度策定))

【地域ビジョン】「いにしえ」から「現在」、「未来」まで高千穂を「継ぐ」高千穂を「拓く」

基本目標	基本的方向性
(1) 魅力的かつ稼ぐことのできる “しごと”環境づくり	I 高千穂ブランドを活かした、農林畜産業の推進 II 観光と連携した、市街地活性化の推進 III 魅力ある仕事づくり・起業支援による産業振興の推進
(2) 「神都 高千穂」の魅力発信による、 多様な“ひと”とのつながりづくり	I 滞在を前提とした、魅力ある観光地づくりと誘客強化の推進 II 歴史と文化を活かした、地域振興・観光振興の推進 III 移住・定住に選ばれるまちづくりの推進
(3) 結婚・出産・子育ての 希望が叶う“まち”づくり	I 誰もが結婚・出産の希望を叶えられるまちづくりの推進 II 希望する子育てを、誰もが実現できる子育て支援の推進 III ワーク・ライフ・バランスの実現により、自分らしく暮らすことができる環境づくりの推進
(4) 「高千穂に住んでよかった」と 感じる“地域”づくり	I 保健・福祉の充実により、幸せに暮らせるまちづくりの推進 II 郷土愛を育む教育による、高千穂に貢献する人材育成の推進 III 地域のつながりによる、魅力的なコミュニティづくりの推進 IV 快適な交通環境の実現による、まちの活性化の推進

たかちほの杜（もり）プロジェクト

【基本理念】～まちを育み、人をつなぎ、未来を守る共創拠点づくり～
まちづくりの核となる2つの拠点

まちなか複合拠点施設



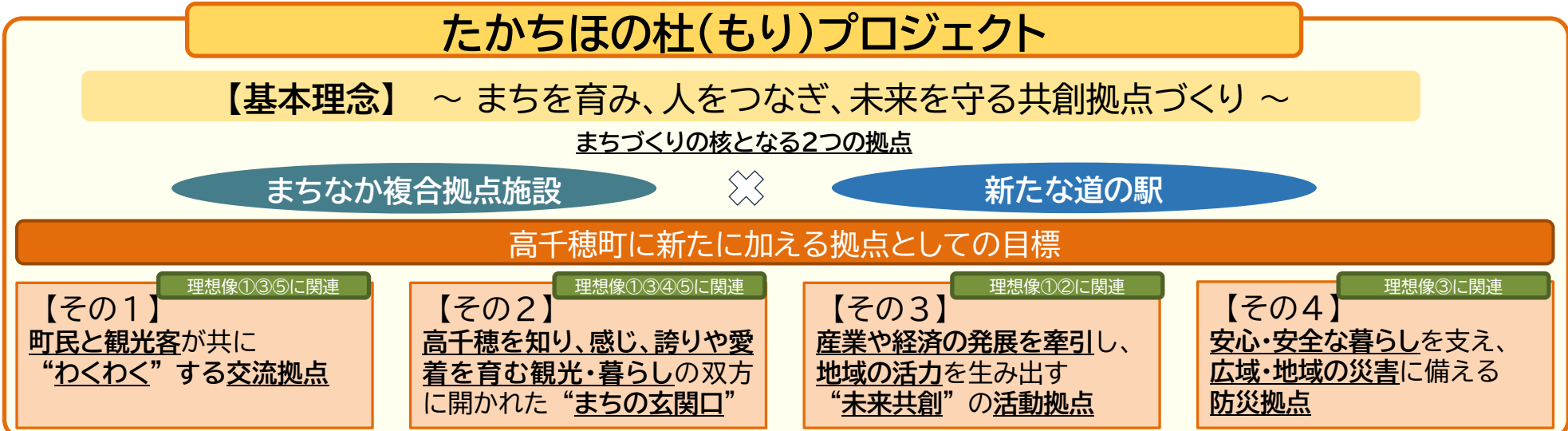
新たな道の駅

その他施策

高千穂町の理想像【詳細は次頁】

4. たかちほの杜プロジェクトにおける目標と高千穂町の理想像との関連

➤ **5つの高千穂町の理想像**を設定し、**理想像を実現するためのたかちほの杜プロジェクトにおける目標を4つ**設定した。



理想像を実現するための
たかちほの杜プロジェクトにおける目標を設定

高千穂町の理想像				
<p>①子どもたちが育って帰ってこられるまち</p>	<p>②働くよろこびと挑戦があるまち</p>	<p>③安心して暮らし続けられるまち</p>	<p>④人と自然が共生し、歴史や文化、魅力を誇れるまち</p>	<p>⑤人とまちがつながる交流のまち</p>
<p>子どもたちが笑顔で学び、成長し、またこの町に帰ってこられる居場所がある。 人の流れと想いが受け継がれ、高千穂の暮らしや教育の場、地域の営みが20年後も元気に続く、「育ちの循環」があるまち。</p>	<p>地元で働く、挑戦する、誇りをもって暮らす。 農業・観光・サービスなど多様な仕事生まれ、若者が選び、帰ってくるまち。</p>	<p>誰もが「ここで生きてよかった」と思える、生涯安心のまち。 医療・子育て・福祉の支援・交通が整い、世代を超えて支え合う暮らしが根づいた安心安全で住み続けたいと思えるまち。</p>	<p>杜に守られ、神話に息づく高千穂の自然と歴史や文化を未来へ。 観光客も町民も、自然とともに生きる誇りを感じるまち。</p>	<p>高速道路や道の駅、まちなかを結ぶ新しい交流軸。 町の玄関口から中心部まで、人の流れと笑顔がめぐるまち。</p>

5. まちなか複合拠点施設と新たな道の駅の役割

➤ 「たかちほの杜プロジェクト」では、基本理念と4つの目標を掲げ、**まちづくりの核となる2つの拠点が役割を分担、連携**しながら**目標達成**や**高千穂町の理想像の実現**に向け取り組む。

たかちほの杜(もり)プロジェクト

【基本理念】～ まちを育み、人をつなぎ、未来を守る共創拠点づくり ～

「杜(もり)」という言葉には、高千穂の自然・神話・文化を象徴する意味が込められています。同時に、地域が人と人とのつながりによって“育っていく”象徴的な存在としても機能します。拠点は単なる建築物ではなく、**多様な人々が関わり、育て、支え合う「生きた空間」**であることを表現しています。

まちづくりの核となる2つの拠点の役割

高千穂町に新たに加える 拠点としての目標

【目標その1】
町民と観光客が共に
“わくわく”する交流拠点

【目標その2】
高千穂を知り、感じ、誇りや愛着を育む
観光・暮らしの双方に開かれた
“まちの玄関口”

【目標その3】
産業や経済の発展を牽引し、地域の活力を生み出す“未来共創”の活動拠点

【目標その4】
安心・安全な暮らしを支え、
広域・地域の災害に備える防災拠点

まちなか複合拠点施設

- ・町民が同世代や多世代での交流を通じ、**生きがいや学び**を感じ続けられる拠点。
- ・町民がコミュニティに参加する**玄関口(通用口)**。
- ・町民の**生活の変化**に合わせて、常に利用され、暮らしの便利が集約した**拠り所**となる拠点。
- ・町民の**起業を支援**する拠点。
- ・**地域内外の事業者等の連携を生み出す**拠点。
- ・町内での災害発生時の**災害対応力を高める**拠点。



新たな道の駅

- ・観光客や来訪者が町民との交流の中で**高千穂の良さ**を感じる拠点。
- ・町民が**賑わいある空間**を感じる拠点。
- ・観光客や来訪者を迎え入れ、**町内へ誘導する玄関口**。
- ・高千穂の自然や歴史文化等の**魅力を町内外に伝え、誇りや愛着を醸成**する拠点。
- ・賑わいや産業・経済の**活性化の起点**となり、**町内に波及**させる拠点。
- ・町内外に対して**新たなビジネスにチャレンジ**できる拠点。
- ・大規模災害発生時に**広域・地域の災害対応の活動拠点**や**中継拠点**を担う拠点。

6. まちなか複合拠点施設および新たな道の駅のコンセプト

- まちなか複合拠点施設および新たな道の駅における目標を具体化するために、2つの拠点のコンセプトを設定した。
- まちなか複合拠点施設と新たな道の駅でそれぞれ5つのプラスを実現し、2つの拠点で機能分担・連携しながら相乗効果を生み出していく。
- なお、新たな道の駅は全国動向である『「道の駅」第3ステージ中間レビューと今後の方向性』に示される地方創生・観光・防災の拠点として役割を担うことを踏まえて検討する。

たかちほ+ (プラス)

創ること、育てることから『たかちほをプラス』に変える
まちづくりの核となる2つの共創拠点づくりを目指します。

まちなか複合拠点施設

新たな道の駅

01

まちなかの
・ 拠り所
・ 交流
+ (プラス)

02

地域住民の
・ 暮らしの便利
・ 移動の便利
+ (プラス)

03

多世代の支援
・ 学 び
・ 子育て・福祉
・ 生きがい
+ (プラス)

04

地域の活力
・ 起業支援
・ 連 携
+ (プラス)

05

安心・安全
・ 町内防災拠点
+ (プラス)

01

町民と観光客の
・ 賑わい
・ 交 流
+ (プラス)

02

観光周遊
・ 交通結節点
・ 情報提供
+ (プラス)

03

産業・経済の
・ 活性化
・ 波 及
+ (プラス)

04

地域資源の
・ 発 信
・ 継 承
+ (プラス)

05

安心・安全
・ 広域防災拠点
・ 地域防災拠点
+ (プラス)

機能分担・連携
・ 相乗効果

7. まちなか複合拠点施設および新たな道の駅への導入機能

➤ **2つの拠点の役割に応じて求められる機能**を下表のとおり設定した。

目標	役割/機能	まちなか複合拠点施設	連携イメージ	新たな道の駅
【目標その1】 町民と観光客が共に“わくわく”する交流拠点	役割	・町民が同世代や多世代での交流を通じ、生きがいや学びを感じ続けられる拠点。	町民等の日常と非日常での賑わいや交流 ↔	・観光客や来訪者が町民との交流の中で高千穂の良さを感じる拠点。 ・町民が賑わいある空間を感じる拠点。
	機能	①生涯学習拠点機能（図書館・文化施設等） ②子育て支援機能（相談窓口、屋内遊具施設、授乳室、事務所等） ③福祉支援機能（相談窓口、事務所等） ④飲食・交流機能（カフェ、交流スペース、広場等）		① 飲食機能 （レストラン、テイクアウト等） ② 物販機能 （地元農産物や加工品の販売・提供等） ③ 遊び・交流・休憩機能 （広場、遊具、展望スペース、全天候型施設等）
【目標その2】 高千穂を知り、感じ、誇りや愛着を育む観光・暮らしの双方に開かれた“まちの玄関口”	役割	・町民がコミュニティに参加する玄関口（通用口） ・町民の生活の変化に合わせて、常に利用され、暮らしの便利が集約した拠り所となる拠点。	2つの拠点間や地域内の周遊 ↔	・観光客や来訪者を迎え入れ、町内へ誘導する玄関口。 ・高千穂の自然や歴史文化等の魅力を町内外に伝え、誇りや愛着を醸成する拠点。
	機能	⑤ コミュニティ形成支援機能 （多様な活動が生まれる場、地域情報の発信等） ⑥ 地域交通の拠点機能 （高速バス・地域内循環バス等停留所、待機スペース、二次交通の乗り換え等） ⑦ コンパクトで生活しやすいまちづくりの拠点となる機能 （中央公民館、子育て・福祉支援に関する施設等の集約）		④ 観光案内・地域情報発信機能 （体験アクティビティ等案内窓口、外国人観光客受入拠点、観光資源のPR・ガイダンス等） ⑤ 伝統芸能の発信・体験・継承機能 （夜神楽に関する展示・体験等） ⑥ 交通結節点機能 （高速バス・地域内循環バス等停留所、二次交通の乗り換え、観光客駐車場等）
【目標その3】 産業や経済の発展を牽引し、地域の活力を生み出す“未来共創”の活動拠点	役割	・町民の起業を支援する拠点。 ・地域内外の事業者等の連携を生み出す拠点。	開発商品販売、事業実施、雇用創出等 → ← ニーズ把握等	・賑わいや産業・経済の活性化の起点となり、町内に波及させる拠点。 ・町内外に対して新たなビジネスにチャレンジできる拠点。
	機能	⑧ 起業・働き方支援機能 （研修場所、認知症カフェ等） ⑨ 地域産業創出支援機能 （6次産業化の商品開発等）		⑦ チャレンジ支援機能 （テナント出店スペース、商品販売等） ②【再掲】物販機能（地元農産物や加工品の販売・提供等）
【目標その4】 安心・安全な暮らしを支え、広域・地域の災害に備える防災拠点	役割	・町内での災害発生時の災害対応力を高める拠点。	災害発生時の機能分担 ↔	・大規模災害発生時に広域・地域の災害対応の活動拠点や中継拠点を担う拠点。
	機能	⑩ 防災機能【町内】 （避難所、災害時の情報発信等）		⑧ 防災機能【広域・地域】 （一時的な避難場所、部隊等の中継・活動拠点、物資等の集配拠点等）
その他（道の駅としての必要機能）				⑨ 道路情報提供機能、休憩機能 （駐車場、トイレ）

8-1. まちなか複合拠点施設の配置方針

- まちなか複合拠点施設は、**バスセンター周辺**に配置する。
- まちなか複合拠点施設には、**公共機能を集約した建物**や**地域交通の拠点機能**、**駐車場**、**広場**等を配置し、近接地に**移転予定の観光協会との連携**にも**配慮**する。
- **旧町立病院跡地**は**まちなか複合拠点施設と連携した公共的空間活用**を検討する。

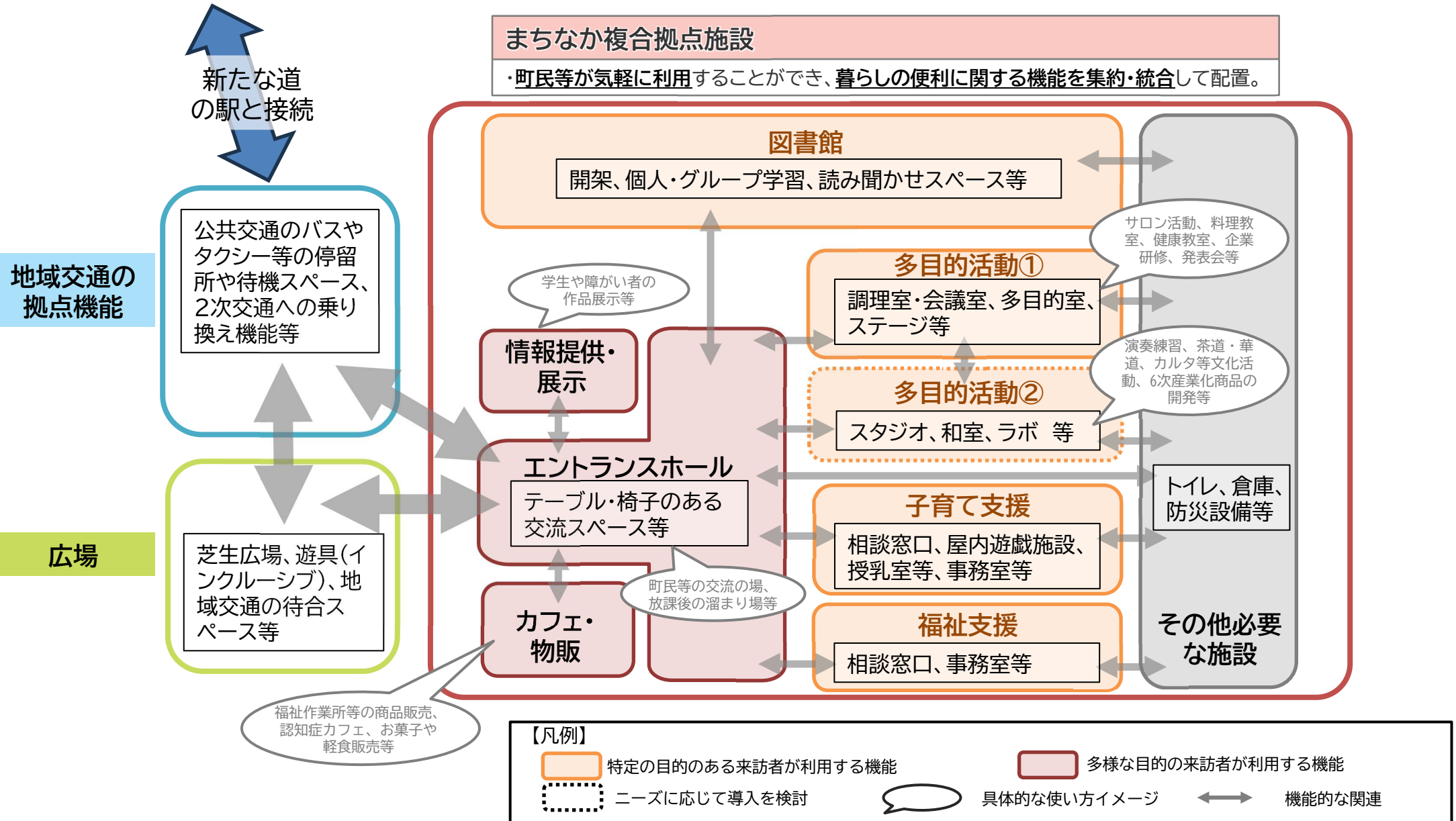


まちなか複合拠点施設

- ・ **バスセンター付近**に配置。
- ・ まちなか複合拠点施設（建物）、**地域交通の拠点機能**、**駐車場**、**広場**等を配置。

8-2. まちなか複合拠点施設の主な導入機能の配置イメージ

▶ まちなか複合拠点施設の導入機能は下記を想定し、**多様な目的の来訪者が利用する機能を施設入口付近に配置し、施設外の地域交通の拠点や屋外広場に接続、特定の目的のある来訪者が利用する機能は入口から離れた位置に配置する。**



8-3. まちなか複合拠点施設への主な導入機能イメージ

▶ まちなか複合拠点施設に導入する主な機能のイメージは下記の通り。

①生涯学習拠点機能（図書館・文化施設）の導入イメージ



会話しながら個人やグループで学習できるスペースのイメージ
(宮崎県延岡市駅前複合施設エンクロス)



演奏の練習などの文化活動に利用できる部屋のイメージ
(岩手県紫波郡紫波町 オガールプラザ情報交流館)
出典URL <http://studio.town.shiwa.iwate.jp/>

⑤コミュニティ形成支援機能の導入イメージ



調理室や多目的スペースがあり、目的や利用形態に応じ部屋を仕切って利用できるスペースのイメージ
(那覇市第一牧志公設市場 調理体験室及び多目的室)



②子育て支援機能の導入イメージ



子育て支援窓口とあわせて子育て世代が交流できるスペースや幼児・乳幼児を遊ばせることができる機能のイメージ
(新潟県妙高市 複合施設まちなか+)
出典URL <https://machinakaplus-myoko.jp/>



6次化商品開発のラボのイメージ
(沖縄県名護市 名護アグリパーク)

④飲食・交流機能の導入イメージ



カフェやイス・テーブルの設置など、気軽に休憩や滞在、交流できる機能のイメージ
(佐賀県嬉野市 道の駅「うれのまるく」)



(新潟県妙高市 複合施設まちなか+)
出典URL <https://machinakaplus-myoko.jp/>



⑥地域交通の拠点機能の導入イメージ



地域内循環バスの停留所のイメージ
(宮崎県串間市 道の駅「くしま」)



2次交通への乗り換えのイメージ（レンタサイクル）
(静岡県函南町 道の駅「伊豆ゲートウェイ函南」)

9-1. 新たな道の駅の位置と周辺道路等との接続方針（案）

- ▶ 新たな道の駅は、**高速道路利用者が国道325号との立体交差により直接アクセス可能**で、**国道の道路利用者も含めて休憩機能を提供できるよう、総合公園北側に配置する。**
- ▶ **道路管理者(県)と設置者(町)による一体型の整備**を想定し、道路管理者が整備する道路管理者区域と設置者が整備する設置者区域を区分して施設を配置する。
- ▶ **(仮称)高千穂ICから道の駅への立体交差は、現実的な方向性として具体的な検討を進める。**



新たな道の駅

- ・ 総合公園北側に配置。
- ・ 設置者(町)と道路管理者(県)の一体型の整備。

設置者(町)区域：地域振興・駐車場・広場・防災
道路管理者区域：情報提供・トイレ・駐車場・防災 等

ICから道の駅のアクセスルート

・ 高速道路の休憩施設としての円滑なアクセス確保と周辺への交通影響を抑えるため、IC出口から新たな道の駅に国道を跨ぐ立体交差により接続。

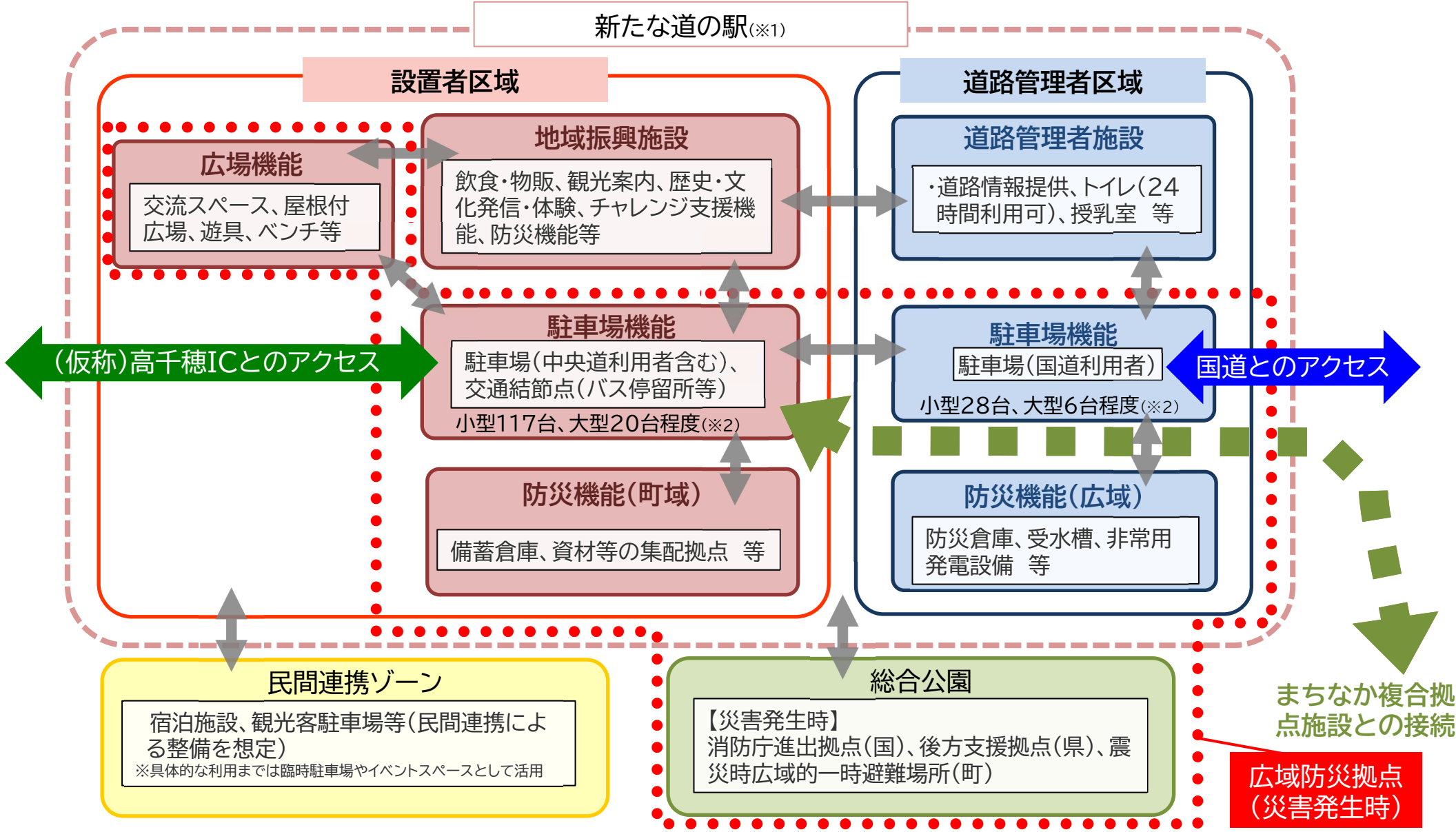
道の駅区域・国道へのアクセスルート

・ IC出口・道の駅区域、道の駅区域・国道325号・218号間のアクセスルートは、交通影響等を考慮しながら今後検討。

新たな道の駅の周辺既存施設の方針	
総合公園 野球場	折原グラウンドへ移設
総合公園 テニスコート	新たな道の駅内に代替機能
総合公園 自由広場	
サブグラウンド	総合公園総合競技場を活用
コミュニティセンター	存置の場合は活用検討
自然休養村管理センター	まちなか複合拠点施設に機能集約(老朽化のため除却)
ヘリポート	町域で機能維持(存置又は、新たな道の駅周辺に配置、折原グラウンドを活用検討)
道の駅「高千穂」	新たな道の駅に移転

9-2. 新たな道の駅の主な導入機能の配置イメージ

▶ 新たな道の駅は設置者区域及び道路管理者施設に道の駅として必要な機能を配置すると共に、災害時には総合公園と一体的な広域防災拠点となることを想定する。



※1 既存の道の駅「高千穂」を新たな道の駅として、移転した後の利用方法(新たな施設利用に転換する等)については今後検討する
 ※2 駐車舞台数は高速道路及び国道325号の交通量(推計値)から算出した台数(推計値の出典: 令和6年度九州中央道計画検討業務/延岡河川国道事務所計画課)
 注) 駐車舞台数は隣接した総合公園や民間連携による整備分も含め全体での必要な台数を確保する

9-3. 新たな道の駅への主な導入機能イメージ

▶ **新たな道の駅に導入する主な機能のイメージ**は下記の通り。

① 飲食、② 物販機能の導入イメージ



開放的な空間に導入された飲食・物販機能のイメージ
(新潟県阿賀野市 道の駅「あがの」)

③ 遊び・交流・休憩機能の導入イメージ



児童用遊具やインクルーシブ遊具のイメージ
(福岡県田川郡大任町 道の駅「おおとう桜街道」)

景色を楽しめる休憩・展望スペースのイメージ
(山梨県北杜市清里テラス)

天候に左右されず児童が遊ぶことができるスペースのイメージ
(宮崎県都城市 道の駅「都城NiQLL」)

④ 観光案内・地域情報発信機能の導入イメージ



観光案内所を情報提供や子育て支援施設と一体的に整備した施設のイメージ
(宮崎県都城市 道の駅「都城NiQLL」)

旬の観光情報等を発信できる案内板のイメージ
(静岡県函南町 道の駅「伊豆ゲートウェイ函南」)

⑤ 伝統芸能の保存・発信・体験機能の導入イメージ



地域資源等の解説を映像で行っているスペースのイメージ
(大分県大分市 道の駅「たのうらら」)

⑥ 交通結節点機能の導入イメージ



道の駅に交通結節点 (BRT駅) を導入しているイメージ
(宮城県南三陸町 道の駅「さんさん南三陸」)
出典URL <https://www.michinoeki-tohoku.com/michinoeki/miyagi/226>

⑦ チャレンジ支援機能の導入イメージ



フードコートやコンテナ等のテナントスペースのイメージ
(群馬県前橋市 道の駅「まえばし赤城」)

キッチンカー出店スペースのイメージ
(熊本県山都町道の駅「通潤橋」)

⑧ 防災機能の導入イメージ



災害発生時に部隊等の中継・活動拠点として駐車場等を活用するイメージ
(熊本県内の道の駅での事例)
出典URL <https://www.michi-no-eki.jp/topics/views/609>

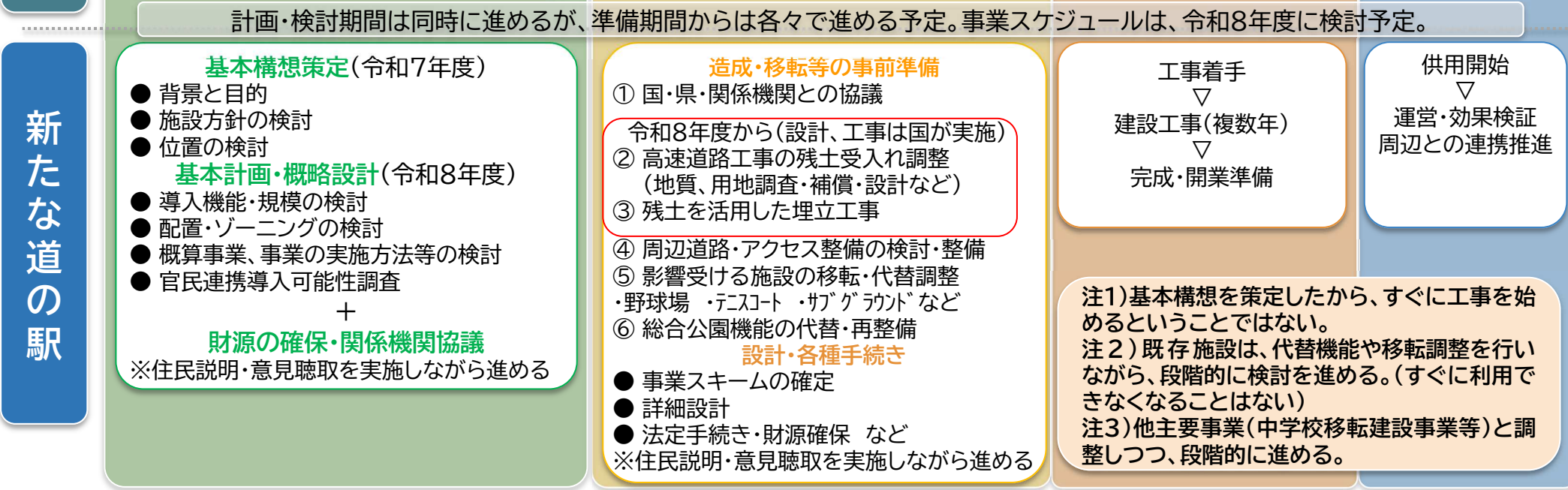
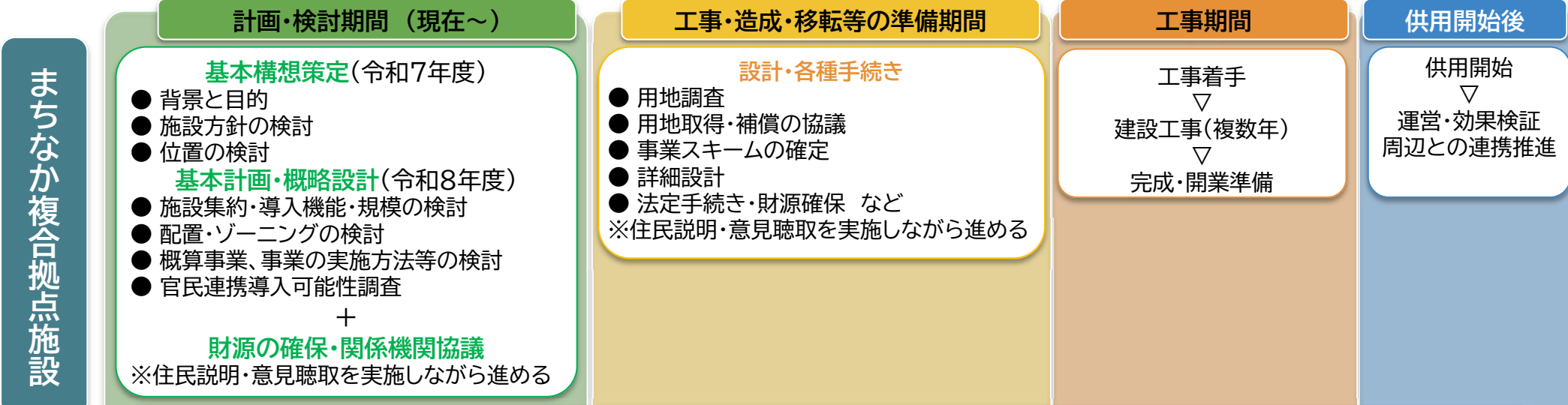


災害発生時に物資等の集配拠点として屋根付きのスペースを活用するイメージ
(熊本県内の道の駅での事例)
出典URL <https://www.michi-no-eki.jp/topics/views/609>

10. 今後のスケジュール

➤ **令和8年5月**に**基本構想**をとりまとめ、**令和8年度**は、**基本計画・概略設計**を実施しつつ、**関係機関との協議**を進めると共に、**住民説明・意見聴取等**を実施しながら進める。
 ➤ 計画・検討後は、**工事・造成・移転等に向けた準備**を行ったうえで、**工事を開始**する。

▼たかちほの杜プロジェクト 事業スケジュール(全体イメージ)



参考1-1. 関係課ヒアリング調査結果概要①

➤ **町の課題の把握**や2つの拠点に関する**ニーズ把握**を目的に**関係課**に対して**ヒアリング調査**を実施した。

	農林振興課	企画観光課	財政課	総務課	福祉保険課	教育総務課	総合政策課
町の課題	<ul style="list-style-type: none"> 農産物は小規模で幅広く生産されており、市場の評価が高くとも付加価値が付き難い状況 高千穂町は釜炒り茶の希少な産地であるが、生産者が減少 	<ul style="list-style-type: none"> 人口減少や高齢化により地域コミュニティの衰退、空き家の増加、耕作放棄地の拡大が進行 町外への購買流出が多く、観光と地元経済が連動していない 公共交通の利便性が低く、地域住民や来訪者が移動しにくい 	<ul style="list-style-type: none"> 機能が重複した施設が多く、利用状況がよくない 廃校等の除却が進んでいない 	<ul style="list-style-type: none"> 防災倉庫として活用している旧町立病院は、立地上搬入に不便 各避難所に防災資材を保管しており、集約できていない 旧町立病院は県からのプッシュ型支援の受入拠点として指定されているが、緊急輸送道路から離れているため円滑な災害対応ができない可能性がある 	<ul style="list-style-type: none"> 福祉分野において、経営面や人材確保面で民間事業者に余力がなく、今後、施設運営を継続できない事業所が出てくる可能性がある 社会福祉協議会の移転先がない 屋内で遊べる場所がない 	<ul style="list-style-type: none"> 社会教育施設や社会体育施設が不足、老朽化 歴史民俗資料館の展示が更新されておらず、学習の場になりにくい 小中高校生が放課後に集う場所がない 図書館は小中高生が下校後に利用しているが、手狭 部活動で指導者と児童を繋げることができていない 	<ul style="list-style-type: none"> 少子高齢化、人口減少 宿泊施設の運営者の高齢化と後継者不足により、将来的に宿泊施設が減少していくことが予想
2つの拠点との連携可能性(課としての事業)	<ul style="list-style-type: none"> ○がまだせ市場との連携 ●高千穂牛の販売を促進し、肉牛の産地としても情報発信を強化 	<ul style="list-style-type: none"> ○町内外の情報を観光客や町民に発信する拠点として活用 ・地産地消の直売所やワークショップができるフリースペースとして活用 ●地域産業を活用した体験を提供できる機能を導入 	○公共施設の集約		<ul style="list-style-type: none"> ●事業所等で企画した商品を販売 ・こども食堂を実施している団体があるため、実施できるスペースがあれば活用 	<ul style="list-style-type: none"> ●観光客に練習風景を見ってもらうこと ・講師を招いた料理教室の開催 ・情報発信や展示等を行う場として活用 	

【凡例】

○まちなか複合拠点施設に関する意見

●道の駅に関する意見

・2つの拠点に共通もしくはどちらかの拠点に該当する意見

参考1-2. 関係課ヒアリング調査結果概要②

	農林振興課	企画観光課	財政課	総務課	福祉保険課	教育総務課	総合政策課	
2つの拠点に期待する事項（導入機能等）	<ul style="list-style-type: none"> ・他施設への案内等による周辺への経済的効果の波及 ●高千穂町地場産品の情報発信拠点 ●農産物の共同加工施設の設置 ●魅力的な商品を陳列 	<ul style="list-style-type: none"> ●町の入口として地域情報や観光情報を一体的に提供 ●地産地消、体験観光等、地域消費を促進する仕掛け ・地域住民と観光客の両者が利用、滞在、交流できる場 ●交通結節点として観光客と地域住民の移動の拠点 ○回遊促進の拠点や滞在促進スポットとして機能 ○利用実態に応じてアップデートできる仕組み 	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援機能が分散している状態であるため、集約して利便性を向上 ・子育て支援機能は公園等の遊べる環境と近い位置であると望ましい 	<ul style="list-style-type: none"> ●防災倉庫を整備し、防災資材を1箇所に集約 ●県からのプッシュ型支援物資を保管できる屋根のあるスペース ○災害発生時の情報提供のための発電設備 ・避難所機能を導入する場合は、畳等の柔らかい床や、車で避難してくる避難者を受け入れる広大な駐車場を整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通との接続を良くすることで子どもや高齢者が利用しやすい施設 ○顔が見え気軽に声掛けしやすいオープンスペースを設けることで交流を促進 ○個室の相談窓口 ○トイレ、授乳室 ○小中高生等児童や高齢者が集まる場 ○サロンが開催できる高齢者の集う場 ○障がいをもった人や不登校児等も集えるような空間 ●子育て支援センターの機能（相談窓口や健康診断、西臼杵子ども・障害ネットワークセンター等）の機能集約 	<ul style="list-style-type: none"> ●神楽のような伝統文化に関する企画展等 ●世界農業遺産1次級パークミュージアム ・電子図書 ・学習室 ・健康遊具 ・スポーツカフェ ○会議室、料理室 ・バリアフリー対応 ・屋内で学習できる場所 ・町民が地域活動等の発表会として活用できるステージ（収納可能） ●小中高生が放課後等に集まれる学習スペースや読書スペース ・屋内多目的スポーツ施設（3on3等） ・部活動等の地域移行サポート 	<ul style="list-style-type: none"> ●町民の日常的な利用ができる施設 ●観光案内や宿泊施設、観光バス発着場等観光拠点施設 ●神楽の伝承機能 ●小学生以上向けの屋内遊具等、雨の日や夏季でも町民や観光客が快適に利用可能な施設 ●防災機能 ○図書館 ○会議室（子育て支援機能等と併設） ○カフェ ○屋内遊具（小学生低学年以下向け） ○ATM ・多用途で活用可能なスペース ・古事記や日本書紀等高千穂の歴史文化の伝承機能 ・小児科や遊び場等を集約した子育て世代のニーズを捉えた施設 	
その他	<ul style="list-style-type: none"> ●道の駅への出荷だけで生産者が十分に収益を得られるような仕組み 	<ul style="list-style-type: none"> ・稼働率が低くならない活用方法等の検討、維持管理費・人件費を抑制する工夫 ・ユニバーサルデザイン ・2つの拠点の明確な役割分担 ・地元事業者が参画できる仕組み ・ICT等デジタル技術を活用 ・継続的な住民のニーズ把握 ・プロジェクトの広報、情報共有 ・2つの拠点にアクセスしやすい駐車場配置・公共交通連携・歩行者動線的设计 					<ul style="list-style-type: none"> ・指定管理やPFI等で一体運営することによる稼働・収益の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・町の財政状況を考慮した事業手法で整備 ・コワーキングスペースは既存施設を活用

【凡例】
 ○まちなか複合拠点施設に関する意見
 ●道の駅に関する意見
 ・2つの拠点に共通もしくはどちらかの拠点に該当する意見

参考2. 事業所等ニーズ調査結果概要

➤ 2つの拠点に関する**ニーズ把握**を目的に**事業所**に対して**アンケート調査**および**ヒアリング調査**を実施した。

	まちなか複合拠点施設	新たな道の駅	2つの拠点もしくは周辺
2つの拠点に期待する役割や求める機能、活用意向	<ul style="list-style-type: none"> 子どもや障がい者、高齢者が集まりやすく交流できる施設（居場所、生きがいづくりの場） 町民が情報を得ることができる施設 多目的に使用できる室内スペース（生きがい学習や健康教室、サロン、子育て支援、柔らかい素材の床、会議室等） 誰もが気軽に集えるカフェ 金融店舗（ATM） 食べ歩きのできる環境づくり 	<ul style="list-style-type: none"> 観光スポット 観光案内（有人・無人）、ガイド機能、神楽の伝承機能（夜神楽の実施等） 地元住民が利用できる レストラン、フードコート、テナントが入れるスペース、チャレンジショップ 加工所、物産館・直売所（特産品紹介、試食試飲、加工所で製造した商品販売） 遊具、公園、芝生広場 イベントスペース、屋根付きの屋外スペース（体験活動実施等） スポーツ大会参加者が利用できる休憩所、食事施設 ガソリンスタンド 多種多様な宿泊施設（RVパーク、キャンプ等） 防災拠点機能、飲料水兼用耐震性貯水槽（循環型）、避難者のストレス軽減及び災害関連死の防止ができる施設（公園や運動のできる施設、簡易型のシャワー棟、簡易型浴槽） 圏域の名物や観光資源を活かし、多くの人々を迎え地域の雇用創出や経済活性化、住民サービス向上に貢献 道の駅を拠点として観光地等をつなぐ輸送手段の確保（観光客等の駐車場、二次交通への乗換機能、ロープウェイ、移動しながら景色を楽しめる等） 道の駅を拠点とした生活サービス（金融・福祉・医療）利用が可能となる公共交通ネットワークの構築 	<ul style="list-style-type: none"> 障がい者の雇用の場（花壇の管理、認知カフェ等） 施設利用者を気軽に連れていける場（芝生広場や雨が降っても行ける場所等） 障がい者等が作成するアート作品等の展示スペース 福祉事業所の商品販売スペース 子育て支援機能（おむつ販売、ミルク用給湯設備、授乳室等） 子どもの遊び場（芝生広場、読み聞かせや親子体操等ができる室内スペース等） 安価に泊まれる宿泊施設（合宿受け入れ） 観光客を受け入れるための駐車場 バス停の設置（路線・高速バス） タクシー乗降場所 気軽に立ち寄れる休憩スペース 安全に歩けるスペース
その他	<ul style="list-style-type: none"> 観光協会が新しい場所に移転する場所付近を中心とした開発 将来的にも継続して使われる多目的な施設 既存施設の集約 ある程度の予算規模、利用者ターゲットを絞り込み利用促進の方策を示した上で、新装オープンする観光協会との連携、既存施設との調整等を図ったまちなか再開発 町民に不利益が生じないこと。また、高千穂ブランドの地域価値の向上が最低条件 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の実情に見合った規模設定 ロケーションを活用できる場所での整備 他の道の駅を参考とした施設（フードコート、広い物産館等） 高速道路の開通工事とあわせたスピード感をもった道の駅整備 地域住民が利用参画できる施設 道の駅の候補地であるサブグラウンドは、ソフトボールの練習、グラウンドゴルフ等で町民の利用の多い場所であるので代替地の整備を要望 がまだせ市場の今後の利用検討 	<ul style="list-style-type: none"> 町として何を打ち出していくのかコンセプトの明確化 2つの拠点の施設内容、建設の必要性を町民に周知 町民や共創会議等の意見を反映しつつもスピード感のある整備 バリアフリー化・ユニバーサルデザイン 高千穂峡へのアクセス改善、自動車侵入抑制 まちなか複合拠点や道の駅を含め町内各施設にアクセスしやすい公共交通等繋げる工夫（循環バス等） 2つの拠点の連携、高千穂鉄道をつなぐことで駐車場の確保と利用客の確保 少子高齢化が進む中、高千穂中学校新築建設が優先 既存の道の駅「高千穂」のロケーション活用 観光地・神話・観光神楽であり神楽の館・宿泊施設飲食店等々の連携があつての町づくり・福祉サービスがあまりにも少ないので、病院や老人の福祉サービスと連携する等の必要

参考3. 町民・観光客等へのアンケート調査結果概要



➤ 2つの拠点に関する**ニーズ把握**を目的に**町民・観光客等へのアンケート調査**を実施した。

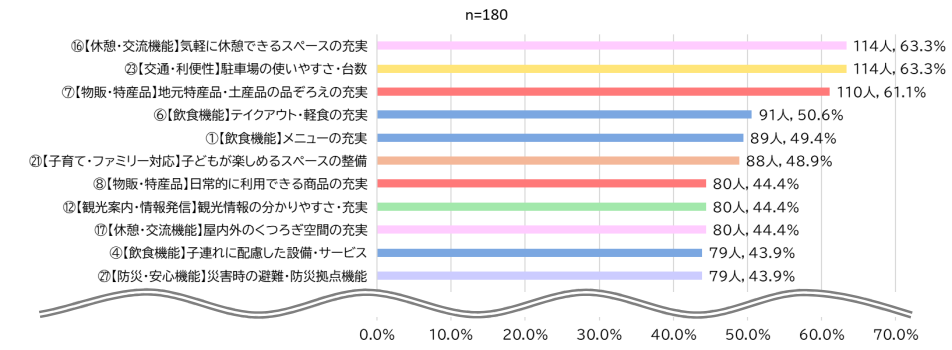
▼町民・観光客等へのアンケート調査概要

目的	まちなか複合拠点施設及び新たな道の駅のニーズ把握
調査対象者	高千穂町民、近隣市町、観光客
調査方法	ポスターや案内チラシに記載したQRコードからWebアンケート回答フォームにアクセスし回答
調査期間	2週間（2026年1月20日（火）～2月3日（火））
質問項目	【高千穂町民、近隣市町村】日常的に利用する施設、既存道の駅利用状況、既存道の駅の評価、まちなかの課題、まちなか複合拠点施設に期待するもの 等 【観光客】来訪目的、滞在時間、立寄り施設、既存道の駅の評価、高千穂観光の評価 等
回答数	町民：180人 近隣市町：14人 観光客：76人 合計270人

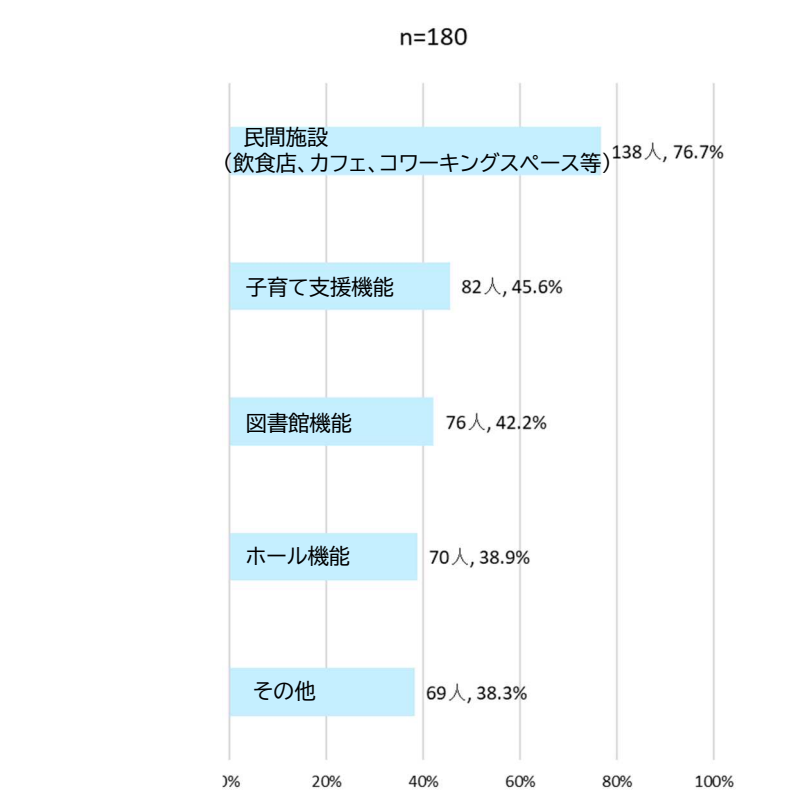
▼アンケート調査ポスター



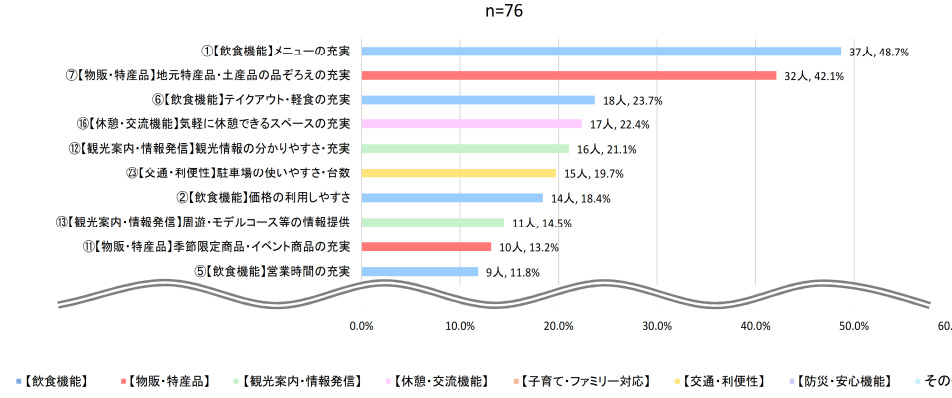
▼道の駅「高千穂」の今後強化した方がよいと思う機能(町民回答/複数選択)



▼まちなか複合拠点施設に求める機能・施設(町民回答/複数選択)



▼道の駅「高千穂」の今後強化した方がよいと思う機能(観光客回答/複数選択)



※近隣市町は回答票数が少なかったため結果を省略

参考4-1 . 第2回たかちほ+未来共創会議（前回R7.12.23実施）の結果①

➤ 第2回では「**10年後、20年後の高千穂町の姿(まちの将来像)**」、「**2つの施設のターゲット**」及び「**2つの施設及びその周辺に求める機能のアイデア**」に関する意見をいただいた。
 ⇒ 「10年後、20年後の高千穂町の姿(まちの将来像)」に関していただいた意見を踏まえ、**町の理想像**を設定した。

○10年後、20年後の高千穂町の姿(まちの将来像)に関する意見のまとめ

しごと・産業	観光・文化	暮らし・子育て	交流・賑わい	防災・交通
<ul style="list-style-type: none"> 農作物の販売や加工による魅力化 働く場所の確保 様々な産業（農業、建設業）が生き残れる仕組みづくり 観光と地元経済や仕事につながる 企業の誘致 観光と地域経済が密接に結びつく町 観光地としての職（働く場所）がある町 観光業を中心にした施設増加・雇用促進 	<ul style="list-style-type: none"> イベントや文化（神楽、神和等）の維持 観光スポットを増やす 観光客に何度も来てもらうことで町に住みたくなる 宿泊税による観光地の整備 	<ul style="list-style-type: none"> 人口減少、人口流出抑制 人口増加、Uターンの促進 誰もが安心して暮らせる町 観光をきっかけとした移住者増加、生活スペースの確保 教育・医療、子育ての充実 各世代が活躍、幸せに暮らせる町 自然豊かで住みやすい町 町の出身者が帰りたと思う町づくり 地域コミュニティの維持 引きこもりの社会復帰支援 レベルの高い学びの場 買い物等に不自由がない町 	<ul style="list-style-type: none"> 若い人にとって魅力あるまち 中心部に商店が多く歩ける町 施設を中央に集約したコンパクトシティ化 	<ul style="list-style-type: none"> 交通渋滞の解消 駐車場の不足 交通アクセスの充実（高千穂峡への交通手段の確保等） 高速道路の整備による町外からのアクセス強化 【再掲】中心部に商店が多く歩ける町



上記結果から観点を整理し、町の将来像を検討

○町の理想像の観点

<ul style="list-style-type: none"> 産業や観光業を発展させることで働く場所を創出し、しごとや経済発展につながる 	<ul style="list-style-type: none"> 高千穂ならではの歴史や文化を継承した魅力ある観光地となり、観光客が滞在し、何度も高千穂を訪れる観光客が増える 	<ul style="list-style-type: none"> 自然豊かで住みやすい町 教育や医療、子育てが充実し、誰もが活躍でき、安心して暮らせる 住み続けたい町で、Uターンや移住者が増え、人口が増える 地域コミュニティが維持されている 	<ul style="list-style-type: none"> 若い人にとって魅力がある 中心部に出かける目的があり、出歩く多くの人で賑わっている 	<ul style="list-style-type: none"> 町外およびまちなかや観光地をつなぐ充実した交通アクセスがある
---	--	--	--	--

参考4-2. 第2回たかちほ+未来共創会議（前回R7.12.23実施）の結果②

- 「2つの施設のターゲット」では、道の駅では「**観光客、町外から車で訪れる人、町民、活動したい人**」、まちなか複合拠点施設は「**町民、高齢者、活動したい人**」の意見を多くいただいた。
 - 「2つの施設及びその周辺に求める機能」では、「**飲食、物販、遊び、交流・憩い、休憩、歴史・文化、コミュニティ・暮らし、観光、交通、防災等**」の観点で意見をいただいた。
- ⇒いただいた意見を踏まえ、**2つの拠点のコンセプトや役割、機能の検討**を行った。

2つの施設及びその周辺に求める機能のアイデアについて(結果まとめ)

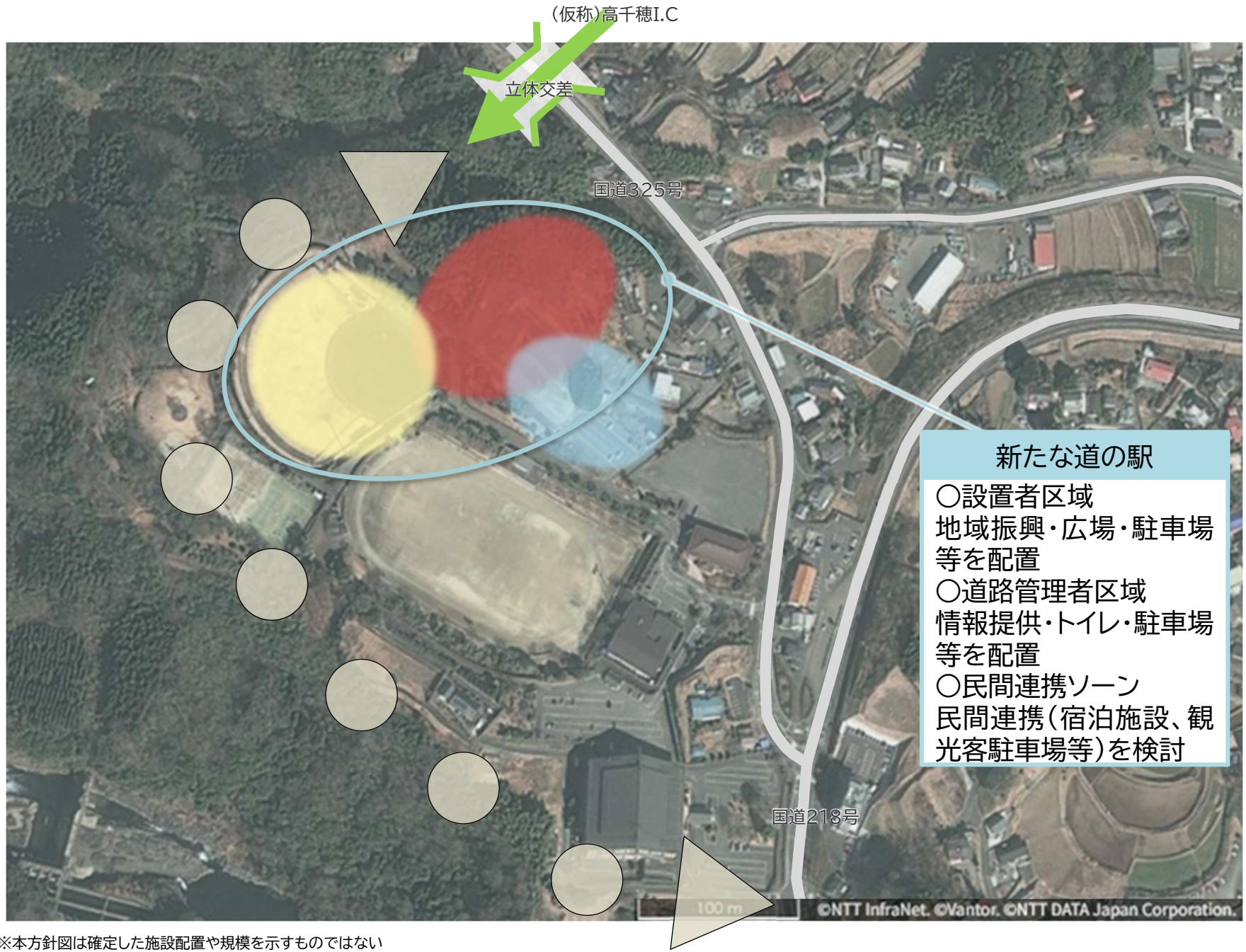
機能	まちなか複合拠点施設	まちなか複合拠点施設周辺	新たな道の駅	新たな道の駅周辺
飲食	飲食機能（地元住民向けの食事、カフェ）	飲食機能（食堂、カフェ）	飲食機能（レストラン）	
物販		コンビニエンスストア/特産品販売機能/スーパーマーケット	特産品や地場製品の販売機能/日常的な買い物ができる場所/地元の人が商売できる場所	出店スペース/コンビニエンスストア
遊び	遊び機能		遊び機能（広場、アスレチック）/ドッグラン	遊び機能
交流・憩い	交流機能（高齢者、世代間）/憩いの場/誰でも気軽に利用できる場		交流機能	
休憩	学習・休憩機能	休憩所	休憩施設	
歴史・文化	高千穂ならではの魅力を伝える施設/史料館や観光協会/展示機能/美術館/文化施設	展示機能		
コミュニティ・暮らし	多目的ホール/図書館機能/福祉機能/公民館機能/会議室/地域情報発信機能/子育て支援機能			
観光			観光情報発信機能/景観活用	
交通	交通拠点（地域内）	地域内回遊/モビリティ/滞在時間を長くする仕組み/交通拠点（バス停、タクシー乗り場等）	交通拠点（広域）	高速道路へのアクセス
防災	防災機能（中継・後方支援施設）		防災機能（災害時の情報発信、避難施設、防災倉庫、防災基地、太陽光発電等）	
その他	多目的トイレ/町民が集まる場を利用して商業が発展/加工体験施設	温泉/多目的な駐車場/体験型施設	道の駅同士の連携/誰でも利用できるトイレ/広大な駐車場/イベントスペース/加工施設との連携	温泉・公衆浴場/スポーツ・健康増進施設/宿泊施設/イベント/駐車場

<別紙> 「8-1. まちなか複合拠点施設の配置方針」の補足



※本方針図は確定した施設配置や規模を示すものではない

<別紙> 「9-1. 新たな道の駅の位置と周辺道路等の接続方針」の補足



※本方針図は確定した施設配置や規模を示すものではない